

苫小牧工業高等専門学校		開講年度	令和03年度 (2021年度)		授業科目	河川・水資源工学	
科目基礎情報							
科目番号	0033			科目区分	専門 / 選択		
授業形態	授業			単位の種別と単位数	学修単位: 2		
開設学科	創造工学科（都市・環境系共通科目）			対象学年	5		
開設期	前期			週時間数	2		
教科書/教材	自作配布プリント／参考書籍；現場のための水文学（1994年北海道開発局土木研究所若手水文学研究会発行），新現場のための水理学（1992年北海道開発局土木研究所河川研究室発行）						
担当教員	谷口 陽子						
到達目標							
1.開水路における等流・不等流計算を理解し，プログラミングによって計算が行える。 2.水文統計解析の基本を理解し，確率水文諸量や確率年を推定することができる。 3.線形貯留関数法による流出解析を理解し，プログラミングによって計算が行える。							
ルーブリック							
		理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安	
1.開水路における等流・不等流計算を理解し，プログラミングによって計算が行える。		1.開水路における等流・不等流計算を理解し，プログラミングによって計算が行える。		1.開水路における等流・不等流計算を理解できる。		1.開水路における等流・不等流計算を理解できない。	
2.水文統計解析の基本を理解し，確率水文諸量や確率年を推定することができる。		2.水文統計解析の基本を理解し，確率水文諸量や確率年を推定することができる。		2.水文統計解析の基本を理解し，確率水文諸量や確率年を概ね推定できる。		2.水文統計解析の基本を理解できない。	
3.線形貯留関数法による流出解析を理解し，プログラミングによって計算が行える。		3.線形貯留関数法による流出解析を理解し，プログラミングによって計算が行える。		3.線形貯留関数法による流出解析を理解し，プログラミングによって概ね計算が行える。		3.線形貯留関数法による流出解析を理解できない。	
学科の到達目標項目との関係							
Ⅰ 人間性 Ⅱ 実践性 Ⅲ 国際性							
教育方法等							
概要	水資源の有効利用あるいは洪水被害の防止・軽減を目的として、人間は河川に対して種々の働きかけをしてきた。本講では、特に現場で使われている水文学，水理学に対してより理解を深め，自分で河川の解析を行えるようになることが目標である。						
授業の進め方・方法	授業は，教員による説明・理解度確認の課題出題で構成します。 この科目は学修単位科目のため，事前・事後学習として課題・演習などを実施し，評価の対象とします。 成績評価は定期試験(40%)，平素の学習状況(課題:60%)で行います。合格点は60点以上です。						
注意点	成績評価に関しては学習状況による評価の割合が高いので，日々の授業を大切に受けるようにしてください。						
授業の属性・履修上の区分							
☒ アクティブラーニング		☒ ICT 利用		☐ 遠隔授業対応		☐ 実務経験のある教員による授業	
授業計画							
		週	授業内容		週ごとの到達目標		
前期	1stQ	1週	開水路の等流・不等流計算（1）		開水路における等流・不等流計算を理解し，プログラミングによって計算が行える。		
		2週	開水路の等流・不等流計算（2）		開水路における等流・不等流計算を理解し，プログラミングによって計算が行える。		
		3週	開水路の等流・不等流計算（3）		開水路における等流・不等流計算を理解し，プログラミングによって計算が行える。		
		4週	開水路の等流・不等流計算（4）		開水路における等流・不等流計算を理解し，プログラミングによって計算が行える。		
		5週	開水路の等流・不等流計算（5）		開水路における等流・不等流計算を理解し，プログラミングによって計算が行える。		
		6週	水文統計解析（1）		水文統計解析の基本を理解し，確率水文諸量や確率年を推定することができる。		
		7週	水文統計解析（2）		水文統計解析の基本を理解し，確率水文諸量や確率年を推定することができる。		
		8週	水文統計解析（3）		水文統計解析の基本を理解し，確率水文諸量や確率年を推定することができる。		
	2ndQ	9週	水文統計解析（4）		水文統計解析の基本を理解し，確率水文諸量や確率年を推定することができる。		
		10週	水文統計解析（5）		水文統計解析の基本を理解し，確率水文諸量や確率年を推定することができる。		
		11週	線形貯留関数法による流出解析（1）		線形貯留関数法による流出解析を理解し，プログラミングによって計算が行える。		
		12週	線形貯留関数法による流出解析（2）		線形貯留関数法による流出解析を理解し，プログラミングによって計算が行える。		
		13週	線形貯留関数法による流出解析（3）		線形貯留関数法による流出解析を理解し，プログラミングによって計算が行える。		
		14週	線形貯留関数法による流出解析（4）		線形貯留関数法による流出解析を理解し，プログラミングによって計算が行える。		
		15週	線形貯留関数法による流出解析（5）		線形貯留関数法による流出解析を理解し，プログラミングによって計算が行える。		
		16週	定期試験				

評価割合				
	課題	定期試験		合計
総合評価割合	60	40	0	100
基礎的能力	20	15	0	35
専門的能力	40	15	0	55
分野横断的能力	0	10	0	10